

第3回 洲本川水系河川整備計画懇談会 河川整備計画（変更）原案 説明資料

令和4年10月14日



目 次

1. 洲本川水系河川整備計画（変更）本文 委員指摘事項を踏まえた修正箇所

..... 3

2. 費用対効果

..... 8

1. 洲本川水系河川整備計画（変更）本文 委員指摘事項を踏まえた修正箇所

3

■ 第1章 第2節 河川整備の現状と課題

1. 治水の現状と課題 (2) 治水の課題 3) 維持管理 1) 河道 (P12)

現行

河道は、繰り返される洪水等の作用により経年的に状態が変化し、その過程で土砂の堆積による**流下断面**の阻害、局所洗掘に伴う堤防や護岸の安全性の低下などが懸念される。

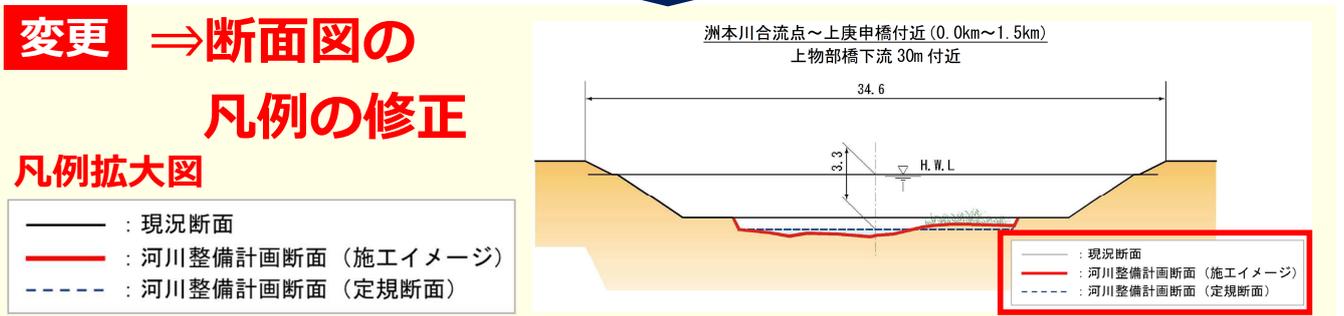
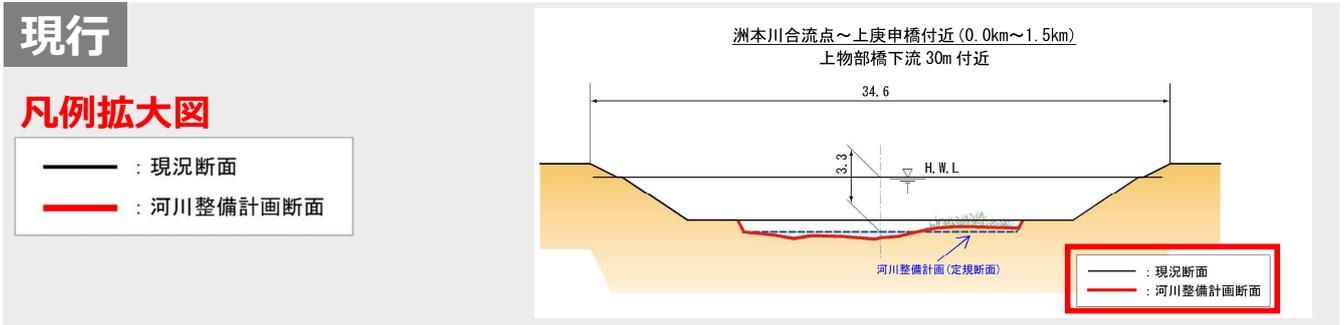
変更 ⇒ 語句の修正

河道は、繰り返される洪水等の作用により経年的に状態が変化し、その過程で土砂の堆積による**河積**の阻害、局所洗掘に伴う堤防や護岸の安全性の低下などが懸念される。

4

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び 施行の場所並びに当該河川工事の施行により 設置される河川管理施設の機能の概要

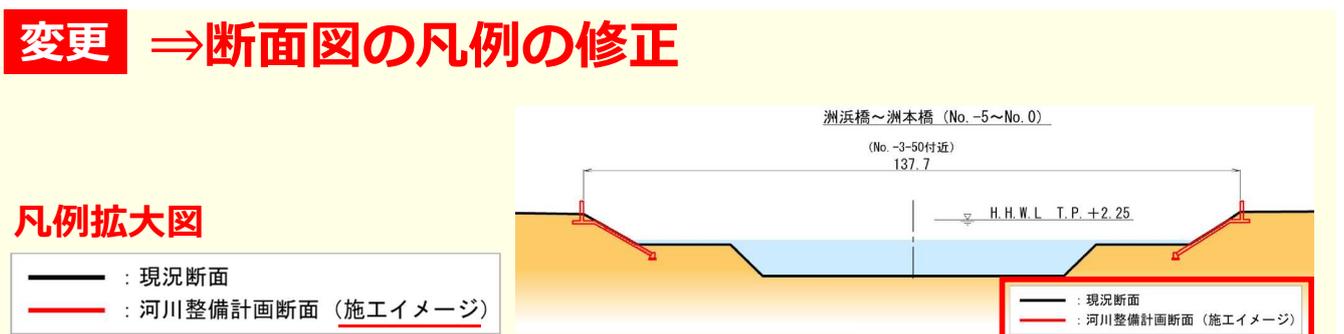
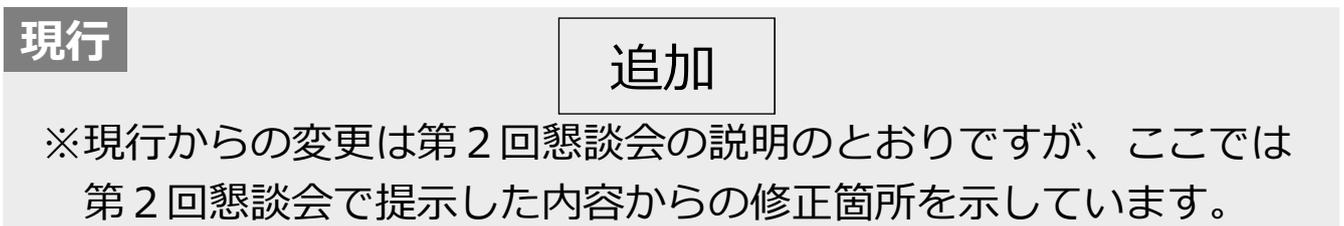
1. 流下能力向上対策 p.22~p.23の断面図の凡例



5

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び 施行の場所並びに当該河川工事の施行により 設置される河川管理施設の機能の概要

3. 高潮対策 p.24



↑ (施工イメージ) の文言を追加

6

■第2章 第3節 その他河川整備を総合的に 行うために必要な事項

1. 河川情報の提供に関する事項 p.29

現行

そのため、市や報道機関等を通じて地域住民への河川情報の周知に努めるとともに、インターネットなどの即時性の高い**新しい**メディアを積極的に活用するなど、ソフト面から減災に取り組む。

変更 ⇒ 語句の削除

そのため、市や報道機関等を通じて地域住民への河川情報の周知に努めるとともに、インターネットなどの即時性の高いメディアを積極的に活用するなど、ソフト面から減災に取り組む。

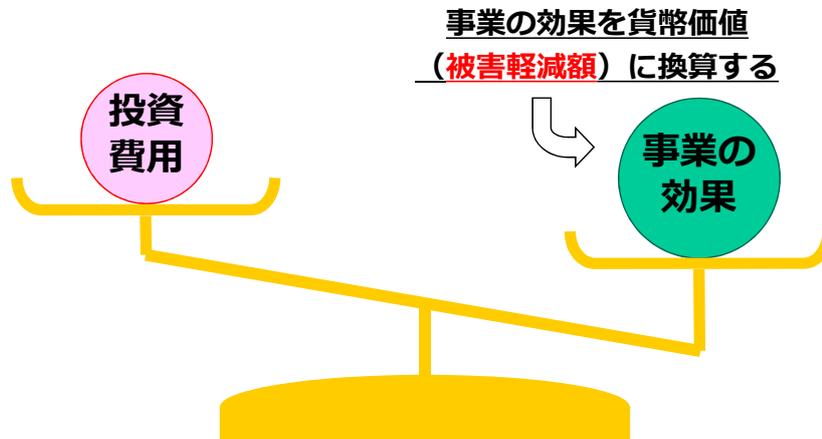
7

2. 費用対効果

8

■ 経済的妥当性とは？

事業の効果をお金に換算し、事業に投資した費用と比較することによって、事業の投資効果を判断すること



投資費用以上の事業効果が得られるか？

投資費用の妥当性 (費用対効果) = 事業の効果 / 投資費用 > 1

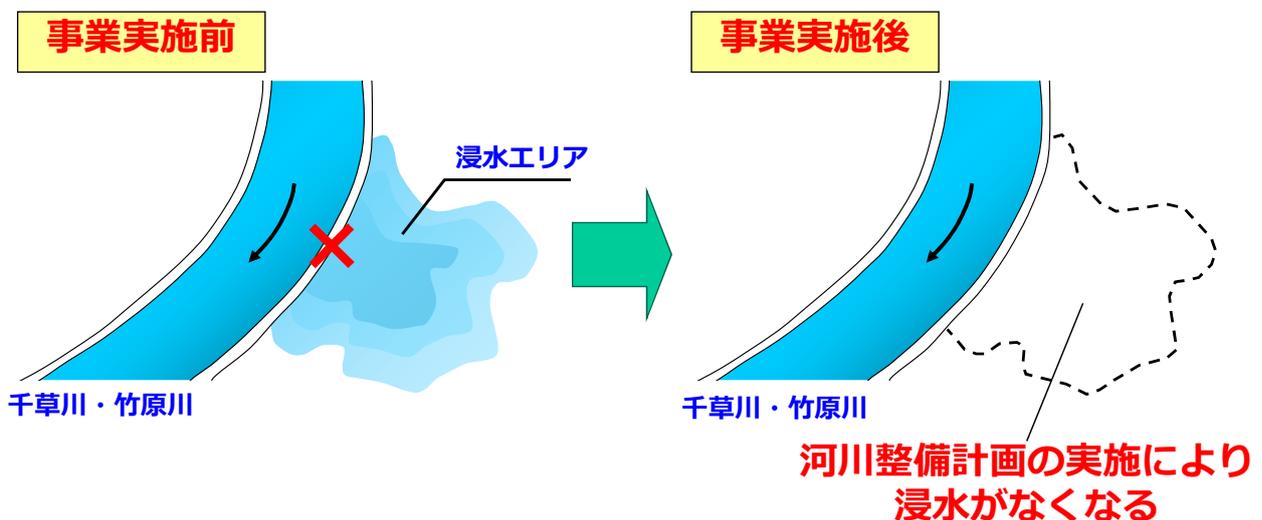
9

■ 事業の効果 (被害軽減額) の算定

千草川、竹原川の場合

事業実施前の被害は事業により解消※されるため

事業の効果 (被害軽減額) = 事業実施前の被害額
と考える



※整備計画の目標とする治水安全度に対しては被害が解消される

■ 事業の効果（被害軽減額）の算定

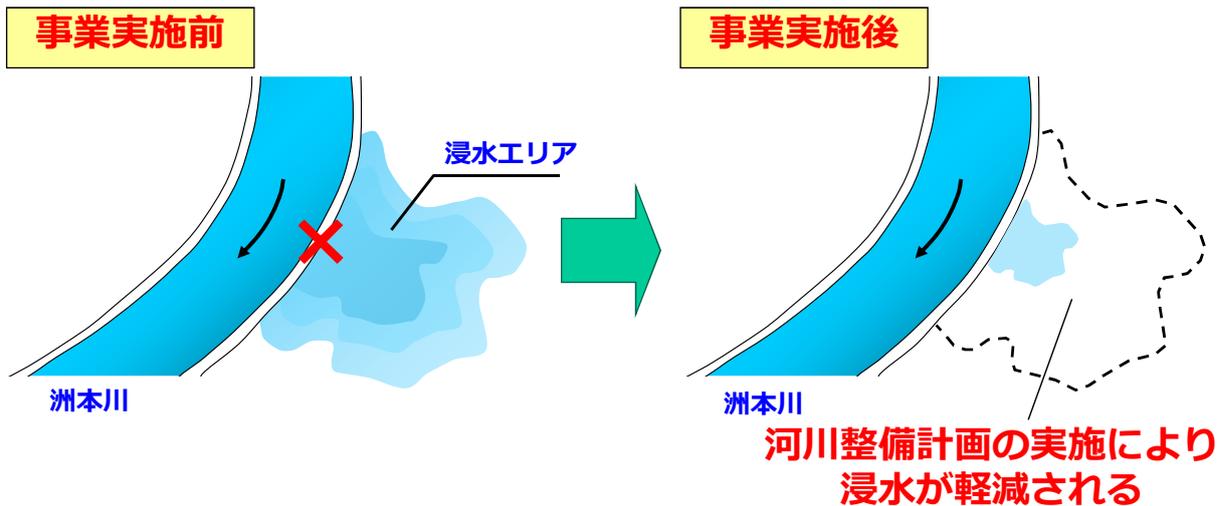
洲本川の場合

事業実施前の被害は事業により軽減されるため

事業の効果（被害軽減額） =

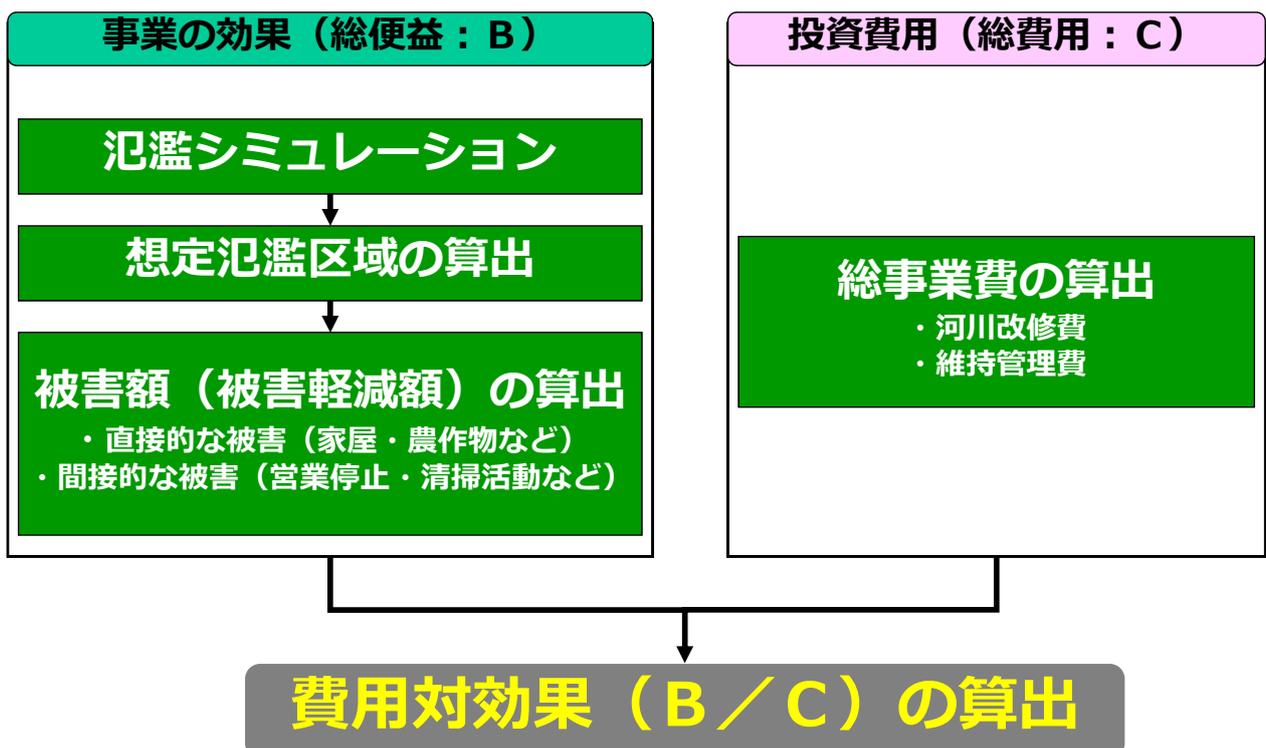
事業実施前の被害額 - 事業実施後の被害額

と考える



11

■ 費用対効果（B / C）算出の流れ



$B / C > 1.0$ であれば事業の妥当性がある

12

■ 費用対効果 (B / C)

箇所	総便益 (B)	総費用 (C)	費用対効果
	(億円)	(億円)	B / C
洲本川	1,713.4	11.9	<u>95.4</u>
千草川 (目標確率年 : 1/60)	25.1	6.3	
竹原川 (目標確率年 : 1/10)			

**B / C = 95.4 > 1.0 であるので
事業の妥当性がある**

※B/Cの値については新規事業評価の段階の精査で結果が変わる可能性があります。13